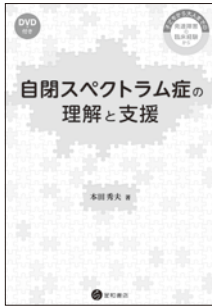


## ■ 書 評



**自閉スペクトラム症の  
理解と支援**  
—子どもから大人までの  
発達障害の臨床経験から—

本田秀夫 著  
星和書店  
2017年12月 248頁  
本体価格 1,800円+税

本書は、自閉スペクトラム症の人たちにかかわる人たちが、自閉スペクトラム症についての理解を深め、支援のアイデアを考えるために必要とされる基礎的な知識や考え方を初学者向けに平易なことばでまとめた入門書である。著者は、わが国の発達障害、特に自閉スペクトラム症の臨床および研究において指導的役割を担う第一人者の一人である。

ライフステージを通じた発達障害の人たちへの生活支援や就労支援は重要な課題で、近年ますます注目が増している。発達障害の中でも最早期に特性が顕在化する自閉スペクトラム症は、その特性が生活のさまざまな場面に影響を与え、他の発達障害や知的障害、精神障害の併存の頻度も高く、疾患異種性が大きい。自閉スペクトラム症の人たちの社会生活への適応状況は、それぞれの地域の生活環境、支援の整備状況によっても異なる。そのため、自閉スペクトラム症の特性や疾患概念は、注意欠如・多動性障害など他の発達障害に比べて理解が難しいとされることが多い。

本書では、このような自閉スペクトラム症の疾患概念や特性、支援の概要を、初学者でもある程度理解できることを目標に解説されている。著者は、乳幼児期から成人期に至るまでの発達障害の人たちと長年かわり続け、幅広い臨床経験を積んでおり、実際の経験に基づいた生きた知見に裏付けされた解説や、著者独特の多くのキャッチフレーズにより、理解しやすく、覚えやすくまとめられている。著者自身も述べているように、中には理解のしやすさの代償に厳密さを欠く表現や誤

解を招く恐れのある表現もあるかもしれないが、疾患概念および支援の概要をつかむための初学者向け入門書としては、良心的で良質なものといえる。

構成としては、全13章よりなり、前半は、自閉スペクトラム症の概念およびその変遷、特性や二次障害など、後半は支援の考え方を、幼児期～思春期および青年期～成人期の2つに分け、前者については早期発見、こだわりへの対応、集団生活における配慮、後者は就労・職業生活の支援、二次障害に対する対応について説明されている。本文は2,3段落ごとに見出しがつけられており、これらの見出しが目次にも列挙されている。そのため、目次を読めば本文の概略はある程度想像でき、関心のある項目について本文を読めば、最近の自閉症臨床のトピックを短時間で概観できる。

そして本書には索引や参考文献はないものの、付録として、本文とほぼ同内容の講演DVDがある。DVDは4時間以上あるが、スライドが豊富でわかりやすく、ある程度知識があれば、数倍速で流し、関心のある場面だけ通常再生すればよいであろう。これらのスライドと同様の図表が本文中にもふんだんに盛り込まれている。DVDと併用しながら本文を一気に読み進め、その後、疑問点や理解を深めたい項目に関しては、成書や論文にあたればよいであろう。

本書はおおむね網羅的であるが、著者の最近の研究テーマの1つである多職種連携に基づく地域特性に応じた支援についての説明があまりない。自閉スペクトラム症の人への支援は、誰か一人の支援者ですべてを支えきれるわけではなく、ライフステージを通して地域の多職種との連携の中で支えるものであろうから、特に初学者においては、対応に苦慮したときに地域の多領域の専門家と円滑な連携の取れる体制を自分が臨床を実践する地域で構築することが重要である。この点に関しても、今後何らかの形で解説をしていただく機会があると幸いである。

(高橋秀俊)